

**2026 年度 A O 選抜 文学部 東アジア研究学域
「人文学プロポーズ方式」**

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
東アジア研究学域	15 名	7 名	5 名

2. 第一次選考<ES (エントリーシート) と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

■ エントリーシートについて

以下の3点について明確な表現ができているかどうかを評価しました。

- ① 高校までの学習・課外活動に対して、どのような姿勢で取り組み、どのように学んだのか。
- ② 東アジア研究学域に入学後、どのようなテーマで研究したいと考えているのか。
- ③ 卒業後のキャリアに、東アジア研究学域での学びをどう活かしていきたいのか。

■ プロポーザルシートについて

以下の3点について評価しました。

- ① 入学後に探究したいテーマと具体的な内容について、主体的な問題意識に基づき、論理的かつ客観的に論じられているか。
- ② 上項に基づいた学習・活動計画について、東アジア研究学域での学びを理解したうえで、文章だけでなく、図表などを使い明確に表現されているか。
- ③ 上記の内容について、主体的学びへの意欲や独創性が示されているか。

(2) 解答状況

エントリーシートについては、上記の3点が、おおむね適切にまとめられていました。

プロポーザルシートについては、これまでの学習や生活体験をふまえ、入学後の学習計画について、先行研究の所説を援用し、また専門的な用語を用いて具体的かつ詳細に述べたものもあり、説得力を持つものが見受けられました。

一方、入学年度以降の本学域の制度と乖離したもの、やや抽象的で具体性に欠けるものもありました。本学域の学びについては、大学のウェブサイト等において公開されていますので、その主旨を理解していただきたいと思いました。また、最新の情報を入手してリサーチしていただく必要があります。

また、学域毎の課題テーマレポートについては、入学後に研究したいテーマとは異なる事柄について書くことになっていましたが、同じ事柄についてのレポートが複数ありました。入学試験要項をよく読んで取り組んでいただきたいと思います。

3. 第二次選考<プレゼンテーション・プレゼンテーションに対する質疑と応答・面接>

(1) 評価ポイント

第二次選考では、プレゼンテーション・プレゼンテーションに対する質疑と応答・面接を行いました。プレゼンテーション・プレゼンテーションに対する質疑と応答については、以下の4点を評価の視点としました。

- ① プレゼンテーションの内容（探究したいテーマ）が、東アジア研究学域における学びと合致しており、基礎的な学力を有しているか。
- ② プレゼンテーションの内容が、主体的な問題意識に基づき、十分な準備や分析がなされているか。
- ③ 研究計画が具体的であり、計画性（実現可能性）を備えているか。
- ④ プレゼンテーションの内容が明確で分かりやすく、質問にも的確に応答できるか。

面接については、以下の3点より評価しました。

- ① 高校までの学習や課外活動に対して、どのように取り組み、どのような学びを得たのか。
- ② 東アジア研究学域を志望する理由と、入学後に計画している学びとが結び付けられているかどうか。
- ③ 東アジア研究学域での学びを卒業後のキャリアにどう活かしていきたいのかが具体的に考えられているか。

（2）解答状況

プレゼンテーションについて、全般的によく準備された内容であると感じました。一方で、ネット情報に安易に基き探究の痕跡が乏しいプレゼンテーションもありました。

面接の質疑応答では、若干、返答に窮し、あるいは考え込む場面が見受けられました。事前の想定からはずれた質問に対応出来ないことが看取できます。しっかりした信念・構想とともに、柔軟な発想が必要です。それはなかなか困難なことだと思います。自分の思いを客観視し自己分析できる視点を持つことが、そのような発想を養うことにつながるでしょう。大学の学びでは他者に対してもですが、自己に対しても批判精神が求められます。

（3）試験（プレゼンテーション・面接）内容

プレゼンテーションでは、「入学後に探究したいテーマと具体的な内容」を中心に「学習・活動計画」を10分間でまとめ、発表してもらいました。その後、内容についての質疑応答を行いました。

また、面接では、高校までの学習や活動、大学進学後の学び、卒業後の目標や将来のビジョンなどについて幅広く質問しました。適宜、プレゼンテーションについての補足質問も行いました。

（4）出題（プレゼンテーション・面接）の意図

プレゼンテーションでは、大学で学ぶための基礎的な力、研究したいテーマの内容と準備状況、課題や大学での学びに対する意欲と計画性、東アジア研究学域での学びについての理解がどの程度かを判断しました。面接では、大学での学びに対する意欲や将来のビジョンの具体性などを判断しました。

（5）受験生に望むこと、その他気付いた点

上述「(2) 解答状況」を参照してください。

以上